

全国準優勝 南関町を全国にアピール

なんかんトッパーズ

高松宮賜杯第66回全日本軟式野球大会が9月10日～12日の3日間にかけて宮城県で開催され、九州代表として出場した南関町の草野球チーム「なんかんトッパーズ」(三浦雅善代表・監督)が準優勝に輝きました。

本大会には、予選を勝ち抜いた32チームが全国から集結。強豪が顔を並べる中、持ち味である堅い守備でリズムを作りながらチーム一丸となって粘り強く戦い、見事決勝まで勝ち進みました。

町長へ報告に訪れた原啓四郎さんは「自分たちのチームカラーを出しながら楽しくプレーができた。町の皆さんから心強い応援やご支援をいただいたことも力となり、大変感謝しています」と話しました。

試合後には、町の特産品の「南関あげ」や「黒棒」を対戦したチームに手渡すなど、全国に南関町の地名や魅力をPRしました。



▲敢闘賞に輝いた藤井投手



◀相手チームへ町の特産物を贈呈



◀左から、三浦監督、原選手、佐藤町長

全国の舞台で躍動 優勝を報告

芦原会館南関支部木村道場

10月12日、芦原会館南関支部木村道場の選手が町長を表敬訪問し、9月23・24日に愛媛県武道館で開催された第1回芦原会館全日本SABIKIトーナメントで、6つの優勝を含む5人が入賞したことを報告しました。

大会には全国各地の小学生から一般まで延べ300人が出場。中学男子の型の部は19人によるトーナメント方式で争われ、中村陽彩さんが優勝、木村陽斗さんが準優勝に輝きました。また、中村さんは10人によるトーナメントで争われた組手の中学男子50kg以上でも優勝を果たしました。組手の一般男子75kg未満の部では、米田 勇さんが9人によるトーナメントを制し優勝しました。

報告に訪れた選手は「自分の戦いができた。来年開催される世界大会でも優勝します」と力強く語りました。



◀全国大会へ向け
気合を入れる選手



◀全国大会優勝を報告した
選手

打って、歩いて、ナイスショット

グラウンドゴルフ大会

10月19日、南関町共同募金委員会(南関町社会福祉協議会)は農村広場で赤い羽根共同募金会長杯チャリティーグラウンドゴルフ大会を開き、秋晴れの中92人の参加者が華麗なショットを見せました。

赤い羽根共同募金のPRと町内各団体の交流を兼ねたチャリティーとして例年開催されている当イベント。はじめに南関町共同募金委員会の立山秀喜会長が「けがのないよう楽しんでください」とあいさつし、3~4人のチームに分かれ3コース2ラウンド制で熱い戦いを繰り広げました。

参加者は一打ごとにチームで声を掛け合ってプレーを楽しみ、ホールインワンを決めたさいには大きな拍手が沸き起こりました。



▲ホールへ狙いを定める参加者



種目	氏名	所属
100m走	江里口 匡史	大阪ガス
	日本選手権4連覇 世界選手権出場 ロンドンオリンピック出場(100m、4x100mリレー) その他多数 国際大会出場	
800m走 (長距離)	武田 侑馬 他2名	Kプロジェクト
全国大会入賞他 九州学院高校 → 山梨学院大学		
走り幅跳び	平野 龍	KURS
	200m国体7位 03年世界選手権日本代表選考会で5位	
走り高跳び	久保田 聡	無所属
	熊本県記録保持者2m21 第88回日本陸上競技選手権優勝 第89回、第91回日本選手権2位	
ボール投げ	島井 寛仁	LARKS熊本 East
	元プロ野球選手 東北楽天ゴールデンイーグルス	
	中川 莉奈	LARKS熊本 East
日本女子プロ野球機構 レイア、埼玉アストライア		

写真の説明

- ①短距離走のコツを伝授
- ②正しい腿上げが重要
- ③高跳びに挑戦
- ④どこまで上がるかな
- ⑤1.2.3で大ジャンプ
- ⑥楽しくトレーニング



9月28日、南関中学校の運動場で町内小学校の5・6年生約140人を対象に「陸上教室」が開かれ、児童はトッパスリットから「走る」「投げる」「跳ぶ」などの基本動作を学びました。

当授業は子ども体力向上促進事業の一環として、A i f e なんかんの協力により開催。「本物と出会う場・本物にふれる場」をテーマに、運動やスポーツに親しみ、生涯スポーツ社会の土台を育成するために実施しました。

当日は、ロンドン五輪日本代表として活躍した江里口匡史さんをはじめ、走り高跳び県記録保持者の久保田聡さん、元プロ野球選手として活躍した島井寛仁さん

など8人が指導に当たりました。はじめに、江里口匡史さんが走り方の基本を指導。「正しい体の使い方を知って、楽しく体を動かそう」と声をかけながら、正しい立ち姿勢や足のあげ方からスタートの構え、短距離走の走り方を指導しました。その後は、「800m走」「走り幅跳び」「走り高跳び」「ボール投げ」とそれぞれのパートに分かれて、各指導者が投げ方や跳び方を手ほどきしました。

南関第三小学校の堀田稔々さん(豊永)は「これからは立つ姿勢や走る姿勢などにも意識して速く走れるように頑張りたい」と笑顔で話しました。

体を動かす楽しさを伝える 子ども体力向上推進プロジェクト2022

スペシャル授業(記録より記憶を)